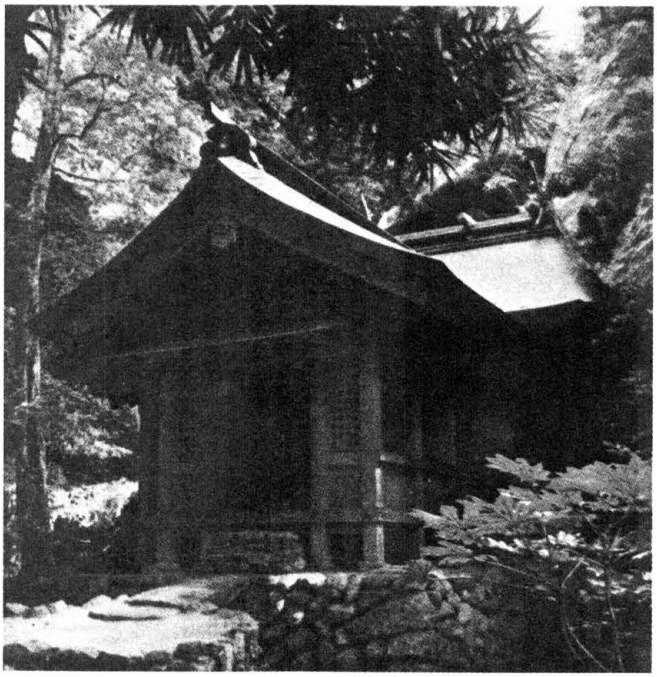
宗像

毎月一日発行
発行所
宗像大社
福岡県宗像郡玄海町
電話 神湊 26番
定価 一年 送料共500円

新春を寿ぎ奉る



春陽を浴びる沖津宮

朝まだき樹間より
春陽は沖津宮のお屋根に
燦々と降りそゝぐ

絶海の孤島沖の島
千古斧をも入れぬ原始林に
沖津宮は神さびて　鎮座まします。

新年のことば

新しき年の始めに、心を新にして神に祈る。この祈りに対して、宗像大神は、次のように御教えを垂れ給う。

道はずっと続いているのですよ時には暗く、見えなくとも、今迄の道程を振り返り、自己の位置を確かめれば、自ずと道は開かれるのです。忍耐と努力とを自己に賦して、他人には誠心を以って接しなさい。

道はずっと続くのです。祖先から私達へ、そして子孫へと永遠に途切れる事はありません。

自己の道程を充実する事です。一日一日を、否一刻一刻を粗末にしない事です。

道は遠くに在るのではなく、あなたの脚下に在るのです。

私は、あなたの行く手を明るく照らしてあげます。

正
祭具、装束
結婚式場用品
賀
宗像大社御用達
松島神輿製作所
京都市下京区北小路通新町西入
電話 (371) 九八八六九番
八三七二番
振替口座京都一五八九一番

論説　丙午の正月

人類の歴史には、自然的に発生した種々の宗教的制約が、面倒な慣習を生んできた。迷信と対照する正信との区別は、一概に判断は下し難い。西欧で丙午的に嫌われる俗習が、十三日と金曜である。キリストの十三番目の使徒ユダが叛いたので、十三日を嫌い、キリストが十字架に上げられた日が金曜なので、この日を忌む。わが国でも、この外国の俗習をもじったのか、劇場遊技場などは、コンヨウビと読んで金曜日は客が少いとしている向きもある。

それは兎も角、ここに言わんとするのは丙午生れの女性を嫌う迷信である。六十年目毎に十干十二支の配合で、丙午の年がめぐってくる。もう今日の若い人達、又今後二十年後に成人となる人達は、丙午の女性は不幸を招くなどという根拠のない悪習を、打破するであろう。

信じてもらいたくない。陰陽道に発した干支の吉凶は、ある時代に宗教者の自宗拡張、民心帰依の方便として、流布された場合もあろうし、所謂善男善女を薬籠に納める手段として、才智に長けた占卜者が編み出した場合もあろう。時としては、権勢の座に在る貴族が、自家の怪異な発展を計って画策し、慣習づけた場合もあると想察される。

いづれにせよ、丙午の年に生れた女性が、人間の不幸を作り、家庭の不和を産み出すなどとは、何の根拠もなく、普遍妥当性のない悪習という外はない。江戸時代はともあれ、明治大正時代の頑迷な一部の人々は、これを信じていた俗習が見られる。六十年前の丙午の年に生れた女性で、適齢期になっても周囲の妄執に妨げられて縁談を得ないまま、尼寺や修道院に好まない人生行路を辿った者も少くない。悲劇である。根も葉もない俗習が作った罪悪である。

毎年毎年発刊される易道社寺の暦本に干支の大安・吉日・友引・さんりんぼ等の編成がある。暦学易道では、これを学問的な理論づけと称して、もっともらしく解説しているが、甚だ納得のゆかない点が少くない。神社寺院も、その経営の方便か知らぬが、これを行事の基本的日時に引用し流布しているが、大安吉日は結婚式その他の祝事の目安として有害でもなかろうが、不吉な暦日は悉く無用に願いたいものである。

暦学易道に聞くと、一日の中にも一時一分その時々刻々の吉凶があると云う。それを細かにセンサクすると、人間は身動きが出来なくなる道理。暦本の吉凶判断は所詮あたるも八卦あたらぬも八卦の占卜の表示であり、これに捉われることなく、人間が悪事でなく善事を発意し、それを実行する日時を平和に幸福にする丙午にしたいものである。

×　×

丙午をエトの馬の性質活動とするなら、勇壮にハツラツとして走る駿馬の如く、よい年であると思えばよい。馬でも虎でも兎でも、みんなよい年ではあるが、元気な馬を象徴する年として、勇気を奮い起して、勉学に職務に努力精進を決意するなら、丙午の正月はまことに効でたい。丙午の年に娘児も大いに生れて結構、適齢期になっても何の心配もいらない。くだらぬ迷信はやめて、社会や家庭を平和に幸福にする丙午にしたいものである。

（白雲）

謹んで新年の御祝詞を申上げます

昭和四十一年元旦
宗像大社宮司
久保輝雄
他職員一同

宗像会員諸賢の御清栄を遥かにお祈り申上げます

社報「宗像」編輯部

お知らせ

＝宝物館＝

皆様おめでとう御座います。当社宝物館の参観は左記の通になっておりますので何卒御了承下さい。

記

開館日
日曜、月曜、水曜、木曜、土曜、祝、祭日、
午前十時から午後四時まで

休館日
火曜日、金曜日、この他、陳列、整理の為臨時に休館する事があります。

阿蒙少言

幼年の頃の正月の思いで。紋付羽織の老父が初詣でに誘う。元旦から叱られてもまいりから、小倉袴で雪の中を随行する。今は正月も雪が少いが、昔は大晦日に用意された足駄を穿いたもの。冬は暖くなったが、蜊が獲れなくなった。大自然の気象状況の週期的変化は、人間生活の都合に関りなく、移りゆく。○過日の御苑の園遊会で、天皇陛下が森繁久弥を見つけられて「七人の孫の森繁だネ」とのお声がかり。森繁は恐縮して、陛下もテレビの七人の孫をご覧ですかと申上げると、いつも見ているとのお答え。よき時代になったもの、陛下と二俳優との歓談、心あたたまる風景。○古典を見ると雄略天皇が野辺のご散歩で、河原に野菜を洗う若い娘に声をかけられた。皇居にいとのお言葉で、年老いるまで待って漸くお召をいただき歌を献する一条。結末はともあれ、平和な親しみある情景が、いつの時代も皇室と国民をつないでほしい。○それにしても不景気風の寒い歳末年頭の巷は、心あたたまる話は少い。殊に中小企業の不振は深刻、苦しまれの手形詐発は三月頃の決算に、多くの悲曲を聞かされることだろう。○人間生活が進歩して、経済を第一義に考えなければ生活出来なくなったことはやむを得ないとしても、セチ辛い世渡りは嫌なもの。江戸ッ子は胥越しの命を大切に使え。○「女賢うして牛売りそこなう」と。女性のリコウぶった無駄口は、職場でも家庭でも違算を呼ぶと、昔の人は女性の発言を警めたが、必ずしもさにあらず。良妻賢母によって呼吸する家庭も少くない「あの先生ウソを教えたな、女賢うして牛よく売れてゆく」と、訂正したい亭主もあろう。失礼！

（順不同）

1966
交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて……
謹しんで新年の御祝詞を申し上げます

福岡トヨタ自動車株式会社
取締役社長　金子道雄
福岡市渡辺通四丁目九番二十五号
電話 代表 (76) 三三三一番

福岡日産自動車株式会社
取締役社長　安藤信夫
福岡市薬院大通二丁目四ノ一番地
電話 (52) 一二三一番

北九州日産モーター株式会社
代表取締役　松本虎次郎
福岡市比恵屋敷町三三番地
電話 代表 (65) 一八三一番

福岡いすゞ自動車株式会社
取締役社長　渡辺藤吉
福岡市比恵新町一二一番地
電話 代表 (64) 一一四一番

福岡マツダ販売株式会社
取締役社長　吉田千治
福岡市白鷺町五十六番地（国道筋）
電話 (65) 二七三一～六番

株式会社梁瀬福岡支店
支店長　鈴木朝夫
福岡市平尾新川町三六ノ一番地
電話 代表 (52) 一二二一番

福岡日野自動車株式会社
取締役社長　植竹陽介
福岡市堅粕御塔後一三九五番地
電話 大代表 (64) 一一七一番

九州ふそう自動車株式会社
取締役社長　岩田力
福岡市薬院大通り二丁目七二番地
電話 代表 (52) 一三一一番

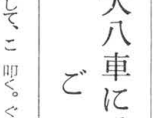
村で放火事件が起って、一軒の雑貨商店が全焼し、近隣にも幾らかの被害があった。放火の状況は漸然、警察の追及もきびしい。火元の雑貨店の主人が、最も濃厚な放火の容疑者と睨まれた。保険金欲しさの犯行として、九分九厘間違いないと警察の目星は強い。

地元の警部補派出所で、容疑者捜査の最後的結論が出て、火元の主人を逮捕することになったが、この主人がごぜん様のお宮の氏子総代であることを知った警部補は、一応ごぜん様の内意をたしかめにきた。

「あの男を引っぱるなら、引っぱってみよ。あれが放火犯人だったら、俺の首をやる。引っぱった後で間違っていたら、君はどうする」と自信満々、ごぜん様の男子の面目を賭けた一言に、警部補は逮捕を躊躇した。ごぜん様と首を賭けての勝負は、容易ならぬ危険と悟った。県警本部の鑑識や聞込み捜査が更に綿密に行われた結果、近所の別人が放火犯人として捕った。

人を信ずることと、信じた以上絶対に犯罪などやらないと確信するごぜん様の信念が、警察の重大ミスを事前に救った。同時に氏子総代の拘引の不名誉と苦悩を未然に防いだ。ごぜん様の面目躍如、いよく村民の信頼感は高まっていった。

宗像談話室　大八車に乗ったごぜん様



「ストップ」と、深夜の門前で停車の号令をかける声がひびく。出て見ると、ごぜん様が大八車に乗っている。この奇妙な乗用車は氏子総代五六人に守られて、異様な騒音を村道にとどろかして、ごこまで到着したのであろう。みんな家にはいれと、ごぜん様の号令は、かなりメートルがあがって、ロレツが怪しい。宵闇の間に居眠り叩く。ぐすくしていると、雨戸は破られてしまう。慌てて起きてごぜん様を迎え入れる。あの人一代は先方ありません、これが村民のあきらめの通用語ともなっている。

「あの人一代は仕方ありません」と村民達はあけて通した。気の向いた家の雨戸を、深夜遠慮なく水入りはない。絶対に苦情の言えない判定である。

もめごとの中で最大の事件は、村の消防団の警察官殴打事件である。若い消防団の花見酒、ひどい騒ぎを公園に発散する。制止できない警察官を袋たたきにした。よい点は一つもない、裁判お何も全くお手上げである。

この暴行事件で、多数が警察に留置され、村をあげての陳情が問題とはなった。幕はいよくごぜん様の出番である。一応の手続を踏んで留置の団員を引取った。次は裁判、親友の弁護士二本先生もこの裁判で一人も男人を出してくれるなどの、ごぜん様の徳とはいささか当惑したとのこと。一本先生の弁論は法廷を驚嘆させた。古事記日本書紀の海洋民族たる漁民の祖先の故事に遡り、その功績を讃えて、その子孫たる被告を罰してはならないと主張。関係の司法官警察官も驚嘆を超えて、笑う外はなかっただろう。

結局、幹部団員全部熱行猶予でケリがついた。ごぜん様は団員やその家族に泣いて感謝された。困ぶ。否が始まる。家族も総代連中も幸福の迷惑だが、この暴君には絶対服従である。

「あの人一代は仕方ありません」と村民達はあけて通した。気の荒い漁村、折々もめごとが起る。最後に尻を持ち込むところは、ごぜん様の権威と当意即妙の軍配である。ごぜん様のあげる軍配に、然し、ごぜん様もただフランスのルイ十六世をまねた暴君振りを発揮するだけではなかった。気の荒い漁村、折々もめごとが起る。最後に尻を持ち込むところは、ごぜん様の権威と当意即妙の軍配である。ごぜん様のあげる軍配に、いた。

正月のまつり

一日　元旦祭　午前四時

年始に当って一年中の福徳を祈願し、あらゆる仕事始めを祝う祭当社では国家隆昌、産業繁栄、文化振興、国家豊穣、大漁満足、特に交通安全の祈願祭を行う。

一〇日　恵比須祭　午前九時

午前〇時を期して多くの車が参集し、境内はあたかも車の展示会場と化した観がある。新車を購入したオーナーは必ず当社に参拝して一年の安全を祈願する。

俗に十日ビスの祭という。境内末社蛭子社に於て玄海町商工会の主催によって商売繁昌の祈願祭を行い、続いて同会員のお座を行う。

一三日　献米奉告祭と鏡餅開き　午前十一時

旧年中に献米袋を配布して郡内より奉献された米を新年に当って神前にお供えし、これ又新年に当って奉献された鏡餅をいただいて生産感謝のまことをささげ、また今年中の幸福を予祝する行事。

一五日　成人祭　午前九時

満二十才に成人した青年を祝福する祭、国民の自覚を換起し、責任を考えることを誓って参拝する。

一月の交通訓

○今日も無事故で　明日も幸せ

神人相嘗の行事　古式祭、御座

春秋の祭もとり〳〵に執り行われたが、年の最後とも云うべき祭「古式祭」が旧臘十二月十五日の未明（午前六時）寒気のなか、古伝の神楽歌

千早振る第一宮の木綿襷
掛けての後は楽しかりけり

の古歌を奏し奉仕された。

この祭典にお供えされる神饌は、永い伝統を持つ菱餅、九年母（クネンボ、蜜柑の一種）ゲバサモ（浜で採れる海藻の一種）等が献げられ、祭典終了後宮座の直会（お座）が清明殿で開かれる。

お座のお膳は前記の神饌と同じものが並べられ、尚神饌のおさがりが少しづゝさし添えられるのである。お座は一番座より数番座と続くのであるが、皆な一番座に座ろうとして、開始前に焚火のそばで待つ人で一ぱいである。

この古式祭は永い伝統のもとに奉仕されている。神職も前夜から全員参籠する。神職、総代が社務所前に列立太殿に参進、祭典が始められる。例年、この頃には、冷気が厳しくなる。殊にこの朝の冷気はひしくと肌に迫って来るようであった。

特製の竹籠に菱餅、九年母等が飾られて奉げられる。古歌が奉唱されて、祭典が終了、愈々お座となる。

御座は午前六時から開かれた。一同が新筵に座ると神職の修祓が行われ、次に当番者が御座縁起を読み上げる。

この詞が終ってから御神饌と同じものを頂くのである。

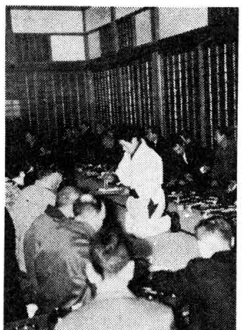
この間に当番者が藁で作った籤を配り、当社の鎮面、守札等を当選者に授与する。

籤面が当った者は此年を招福の年とする様励まねばならないとか神札を受けると病気に罹らないとか色々の話で持ちきりとなる。

当選者の住所氏名がどっと張り出される。斯くしてお座は何番座と数を重ね、人々は神と共に食事するのである。

午前十一時過ぎ最終のお座は終了した。

お座の当番は各部落で順次に奉仕するのが伝統である。古伝に、「その日社壇の左右桑地の内外、馬場の前後の御仮屋の道筋には、武士が充満して非常を警戒し、江口の川よりは十二艘の船を飾って、乙女子、神楽男等は各々威儀を整えて此船に乗り、楽人は音楽を奏し、乙女子は色々の作物を捧げて舞袖を翻へし、全く神の御心も和き給ふやうな態であり云々」古記録を読めば、神郡一体、神人一如、古風な、楽しい、全宗像の神さぶるまつりこびが、お座を終って焚火を囲む人々の背後にありくとしのばれる様であった。



古式床しく　鎮火祭行われる

客年十二月十五日、古式祭に引続いて午前十時、恒例の鎮火祭が斎行された。

地元の各消防団代表者、町村会長、警察署等関係者が定刻までに参集、祭典が厳かに始められた。祝詞奏上に続いて、拝殿に補設された案の上に三つの木箱が置かれ、それぞれに若菜、芹、赤土、お餅等が用意されている。先ず久保宮司が古式通り火打ち石で火を切って、三つの木箱に点火、火がめらめらと燃え上ると、若菜、芹、赤土が掛られる。火勢が劣ると、終りにひさごで水が掛けられて、消火の古儀は終了する。祭典後、関係者は最終のお座に参列した。これから寒気が厳しくなり、空気が乾燥して火災多発シーズンに入る。

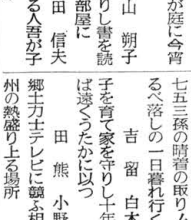
この祭を期して火災を起さないように注意したいものである。

参道口に照明灯を設置

旧冬、国道三号線宗像町東郷橋の傍にハイウエイ式照明灯がとりつけられた。この東郷橋は国道の幅員より二メートルも狭い上に石折の急カーブが続いて見通しが悪く、事故の多い場所であった。交通安全協会からこの場所に照明灯を設置して、三号線の〝魔のカーブ〟追放に協力して欲しいとの依頼があったので、此度の寄贈となったわけである。

この東郷橋の分岐点は当天社への新願車道路の表玄関に当る場所だけに当天社としてもあれてから設置を予定していた個所の一つである。

寒風の中に、今日も安全灯は燈々色に輝いていた。



（写真下は　照明灯）

社務日誌抄

十二月一日　高宮祭午前九時月次祭午前十時より斎行。
楠根四鉄社長参拝、山田幸雄就任

三日　懇親会開催、田島小学校教員と神社職員にて午後五時より社務所に於て行う。

四日　大麻頒布式於て清明殿午前十時より斎行。
評議員会開催、正月祭打合せ午前十一時より社務所にて開催。

五日　赤間中村医院上棟祭大田権祢宜、大野出仕奉仕。
緑風園へ灯油を贈る久保宮司、宇都宮祢宜、田中事務員参列。
京都松島神興店トヨペットマスターライン、ライトバンを当社に寄贈

七日　四者会談開催、正月祭諸準備並に打合せ於社務所。
新和海運宮崎外史一氏、支店長酒井欽郎氏参拝。

八日　地元総代視察旅行に宮司、宇都宮祢宜同行。

一一日　新受付所設置の為旧休憩所を取壊す。

一三日　神社庁宗像支部忘年会、楠本、升谷権祢宜、山田出仕出席。

第五十六回　宗像大社献詠歌会詠草

十二月五日　於社務所詠草到着順

飯塚　萩本　夕照

向津の大注連縄に新らしき紙垂取付けて大祭を待つ

神湊　隣船　俊

港街異国の色の秋まつり諏訪神社に蛇おどりをみる

香椎　織田　椽雨

青雲のそらに風切る若鷹と鋭な触れぞ悲しき気流に（青年の首途に聽して）

福間　森　八蔵

菊の花うつす窓なき秋の晩れ色香もうせて悲しくもかな

山口　篠田南洞城

秋祭の出店も減りてたもとおる人等に入日の茜冷えゆく

戸畑　田中ハツセ

二尺余の青竹でさかっぽ酒高千穂峡の夜は冷えゆく

福間　井原　元彦

不幸者揃ひて来たる石鹿崎伊豆七島を見せぬ雨降る

沖ノ島　佐藤市五郎

浪の音風のすさびを聞きながら一人淋しく秋の祭日（秋季大祭をしのんで）

村山田　吉田佐市郎

稲穂の腰に鎌帯び笠かつぎ田中の道を急ぐ人々

名残　竹原　圓

老松の虫に枯れゆく君が庭に今宵は寂し時雨来にけり

宮田　片山　朔子

夜を匂う花若荷者に古りし書を読みつぎている独り居の部屋に

福岡　吉田　信夫

鱗骨なる看板街に立つる人君が子に何のためらひなきか

陵厳寺　真鍋　万三

隠居して此身は安く治まれど心に消えぬ孫の行く末

東京　小野　迪夫

東京の空に夕星光りをりはるけきことを思ひつゝ歩む

勝浦　永島　文子

花も実も尚貴重なる梅がこと若木の苑に弥栄へませ

筑邦　津留崎初子

柿干すと皮むきおれば末の子のおづとそばに寄りて話す

遠賀　長畑　房江

秋風となりし夜頃を老いの眼はかすみ易くて長くは読まず

大濠　江崎　琴子

うめもどき緑のなかにくれなゐの彩りそへし晩秋の庭

江口　辻野　開造

あちらむきこちらむきつゝ水月の夜空にきくか雨の足あと

宮田　片山　朔子

熟れおそき稲を刈らんに終日をふり注ぐ雨の夜半も音たつ

津屋崎　麦野　時雄

さわやかに夜雨の晴れて庭に敷く柿の錦葉朝日に浮ゆる

田熊　小野　花居

七五三孫の晴着の眼りゞくにつるべ落しの一日暮れ行く

吉留　白木うめの

子を育て家を守りし十年余過ぐれば遠くうたかに以つ

田熊　小野角次郎

郷土力士テレビに顔ふ相撲には九州の熱盛り上る場所

賀春

宗像大社御用達

有限会社　大和印刷所

宗像郡宗像町東郷　電話 宗像 2027番

新年おめでとうございます

○玄海国定公園の中心……風光明媚……生魚料理……宗像大社からバス五分……神湊旅館組合

川口屋　電話 神湊 48番

さつき荘　電話 神湊 30番

泉館　電話 神湊 35番

湊荘　電話 神湊 56番

千成　電話 神湊 46番

喜楽　電話 神湊 19番

玄海　電話 神湊 1番

千鳥荘　電話 神湊 68番

米屋旅館　電話 神湊 111番

高嘉旅館　電話 神湊 50番

あけぼの荘　電話 神湊 66番

午年偶感

昭和四十一年、干支で丙午年、何でもこの年に生れた女性は、男を食い殺すと言って忌まれているそうです。しかし「ひのえうま」に生れた女の赤ちゃんが「ヒヒン」といないて、たてがみを振わせながら、生れ出たと言う話は一度も聞いた事がありません。元来生活を豊かにする為に作られた十干十二支が逆に人間を支配し、束縛するのも妙な話です。恐らくこれは昔々カワイコちゃんにもてなかったヤツが、女性の進出を防害するために企てた陰険な策謀だと思います。

ここまで書いた時、編集長から「馬脚を出さぬように早く書け！」と声がかかりましたので駑馬に鞭打って後を続けます。

そもそもウマが人間と密接な関係をもつようになったのは非常に古く、アジア大陸では北京近郊の周口店でシナントロップス（北京原人）の骨や石器と共にウマの骨が発見されています。またヨーロッパでも、南フランスや、北スペインの洞窟遺跡からも、野生のウマの生態をきわめて写実的に表現した壁画や、彫刻が発見されているのをみましても、ウマが如何に古くより、人間の生活資源として密接な関係をもっていたかを知る事が出来ます。これが家畜として使われたのは、これよりやや年代が経ちまして、現在ではイラン高原より発見されたほぼ西暦紀元前四千年と推定されるウマが最古のものです。

ウマが家畜化された当初は人間の農耕の手助とするのが目的でしたが、次第に部族が増え、部族を養うために、耕地が必要になりますと、食わんが為の戦争が起き上がり、抜け目のないの早速馬の機動性に目をつけて、戦争の道具として利用しました。古代中国では殷、周を通じて、春秋戦国時代はウマは戦車として使役されたことが当時の遺跡からわかります。

かようにウマは人間の農耕、戦争と深いつながりがあるため、ウマについての神話伝説は世界各国に数かぞりなくあります。

先づ我が朝における最初のものは須佐之男命が天班駒の皮をはぎ、機屋に投げ込まれた神話、ギリシャ神話では、天馬があけぼの女神エオスの車を牽いたため、天神ゼウスの怒りをかい、雷電にうたれたとあります。機械文明の発達した現代では、人々はウマと言えばすぐにダービーを連想しますが、競馬も初期は単に勝負を争うだけのものではなかったのです。その年の天候、その日の天候農作物の出来、不出来を占ったのがもとです。古記録によりますと晴を祷るには赤い馬、雨を祷るには黒い馬を朝廷から大和地方の古社へ牽かせたそうです。中世以後の古記録に「神馬十列を献ず」とあるのは色々と毛色の変った十頭の馬の到着するのを見て、その日の天候を占ったものでしょう。また有名な賀茂の競べ馬は、やはり毛色の異なる馬の前後して駈けるのを見て、その年の年占いをしたものです。

古来より名馬と云えば、彼の国にあっては、アレクサンドロス大王愛用のブケパラス、三国志の関羽の御した赤兎馬、我が国にあっては古くは富士川先陣争いの生食、磨墨、湖水渡りの明智左馬介光春の愛馬。近くは、西大尉愛用ウラヌス号と枚挙にいとまがありません。かようにウマは人間と不即不離の関係にあるため、敷島の大和国では馬の毛色も、

青毛　あお　月毛　つきけ
栗毛　くりげ　葦毛　あしげ
霙毛　ひぼりけ

と呼び、これらを更に地の色と合わせて連銭葦毛（れんせんあしげ）黒鹿毛（くらひばり）と優にやさしく呼んでいます。故に万国「ヒノエウマ」の女性よ、胸を張ってドウドウと生きて下さい。貴女方はサルやネズミやウサギの生れ年よりは高貴な生れです。

写真は沖津宮に奉献の石製馬形（AD四世紀）

便り

魚屋旅館 再建の気運昂まる

強い小生元気一杯で勤めて居りますから御安心下さい。

新住居は閑静な所です。どなたか御上京の折には是非お立寄り下さい。

東京は相変らずの通勤ラッシュ。それでも漸く往年の調子を取戻した様です。

先ずはとりあえず御挨拶申上げ

前略　此の度上京に際しては、皆様数々の御心遣いを頂き有難う御座いました。早速御挨拶申上ぐべき処、適当な住宅を見付けるのに手間取り心ならずも失礼致しました。五年間という月日、何かと御世話になりました。大層勉強になったと感謝申上げて居ります。

本庁には仕事が山積して居り、心機一転これに取組んでいます。

一昨年神湊大火の火元であった魚屋旅館は今迄猛災者立直りの為尽力して来たが、罹災者の大半が立上り、焼跡も整理され、新築家屋が立並び大分復旧して来た。しかし老舗を誇る魚屋が立直らないので、福博、東京のファンから再建の要望が再三あり、地元関係者からも神湊繁栄の為に是非共一日も早く営業を再開して欲しい旨の申入れがあっている。

衆知の如く神湊は玄海の生魚料理が低廉美味で豊富な事は広く知ります。向寒の折柄皆様の御自愛祈上げます。

敬具

東京　小野　迪夫

られており、これからシュンのもの料理には各地から団体で繰り込む客が多い。

魚屋旅館はこの神湊の旅館街の中でものれんを誇る老舗である。当大社では地元神湊復興の為に、一昨年復興祈願祭を行い、その端緒として神湊頓宮の建設を進めている。

以下は魚屋旅館の主人からの便りである。

その後、宮司様には益々御壮健の御事と拝察申上げて居ります。いつも存じ乍ら御無沙汰のみ申上げまして恐れ入ります。何卒失礼の段御赦し下さいませ。

忌まわしき一年前の大火……。その節は大変御心配をおかけいたしまして申し訳も御座いません。当時の失望、意気銷沈の所、色々と尊いお言葉、物体ないお励ましの御言葉をいつも苦しい時、想い出します。一年を経ました昨今は私共の身近な方や町の有志の方々に再三御出で下さいまして、立ち上れ、とお進め下さいますし、母の一周忌を迎えました時御仏前にて、今一度再建するの決意が出て参りました。

これから、多難の前途と考えますが、陰に陽に色々と御配慮下さいます宮司様達のおられます事、何よりも力く存じて居ります。

今後共なにとぞよろしく御願い申上げます。何れ御めもじの上で委しい御話を申し上げ度いと存じます。

とりあえず再建の決意を御報告申上げます。

神湊　吉武　繁子

私共もお陰様で躰だけは無事に暮らさして頂いております。

老人ホームに朗報！ 重油寄贈さる

木枯しは肌を刺す様に冷たく吹いていたが、久し振りに青く澄んだ空を見上げ、おじいさん、おばあさん達は「今年も又、御陰様で暖い冬を過せるよ。有難い事だ。」と口々に喜ばれていた。そばでは園長さんをはじめ元気のいいおじいさん数人が八本のドラム罐を車から下すのを手伝っている。

五日の日曜、栗組から吉武の老人ホーム緑風園に重油が寄贈される時の光景である。

これは北九州市戸畑区天籟寺町六八、株式会社栗組社長、柴田昌一さんから、冬のタベを少しでも暖かくと御老人方の入浴用に寄贈される燃料である。

社長が入浴用燃料を寄贈されるようになって早や四年の冬を迎えた。初めはこのドラム罐も四本という事であったが、社長の御好意により八本に増加されたのである。

園長さんの話によると「同園は週二回の入浴で、これを増やしてあげたいという社長さんのお気持で今は一日置きの週三回にする事が出来、皆さん喜んでおります」という事であった。

同園には現在二一名が入居されておりますが、その内訳は男二四名、女四三名、又八十五才以上の方が男一名に対し女三名というように女性の方が長命のようです。しかしこのうちに全身不随の方、全盲の方、その他の病気の方が園長さん以下十名の職員に守られて生活しておられるとの事。

尚、三月当社寄贈のテレビは、人気上々で、御年寄のストレスを解消に一役かっている。

この冬は平年より寒さが厳しいとも言われている。当社からの御願いを心底く引受けて下さった栗

沖の島給水工事終る

去る十二月十三日から十日間、宗像大社沖津宮鎮座、沖ノ島の御神水給水工事が行なわれた。

内陸より直線にて、五十数粁、玄海灘の真中に位置する沖ノ島は、古代より宗像信仰の興義を究めた祭場であり、先年の学術調査によって二萬数千点に及ぶ神宝の発見により江湖の注目を浴びた島でもある。

此の神島には古代より湧き出ずる御神水があり、沖ノ島信仰の大きな要素を持つものであるが、去る昭和三十七年の給水管敷設工事以来、各所に破損を生じ、今回新方式により、配水工事を行なった。工事に最も重点が置かれたのは、本殿近くに手水舎の給水を行う事と、渇水期の断水対策である。

断水防止については、給水タワーを作り、常時貯水が出来るよう施行した。また動力による送水が不能の為、落差を利用して、手水舎迄の送水を行うわけで、平均水位と給水タワーの関係について技術を要したが、総て予定通りに工事が進み、予定の十日間で完工することが出来た。工事については宗像大社社務本局庶務課が設計施行を担当し、専門の業者を入れず、神職のみにて、工事が出来たことは特筆に値する。

尚当日出光興産の森写真技師が一行と共に渡島、作業員と共に工事に従事した。よく協力願ったので、一同大助かりであった。

組社長に厚く御礼申し上げると共に一日も早く暖かい春の来る日を祈ってやまない。

結婚記念植樹祭
——来島家が百口を奉納して——

一昨年から発足した当社結婚記念の献木は、旧冬で第三回目を迎えた。当社で結婚式を挙げられる方々から御厚志を頂き、百口に満る吉日に各カップルにお集まり願い、若木を植えて頂く事になっている。

旧冬、来島、立園御両家から、結婚を期して、是非記念の植樹をさせて頂き度いとの申込みがあり、神社では早速苗木の選定、其の他の準備に取りかかった。

当日は小雨が霽るように立ちぬ、大地は程良く潤って移植には最適の状態であった。

挙式後、植樹の祭りが斎行され、新郎新婦を始め、関係者一同が新たに設けられた宝物館脇の地に集合、苗木に一鍬づつ土がかけられて、祭典は滞りなく終了した。

植樹されたのは楠の若木で、以前松尾神社の傍に在った御神木の一つである。

お二人がこの若木のように、すくすくと伸び栄えられるようお祈りする次第である。

年賀謹

白砂青松の中に
玄界灘を望む
玄海ゴルフ場
福岡県宗像郡玄海町
電話 一一一五 一一一六番

1966　（順不同）

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて……

謹しんで新年の御祝詞を申し上げます

福岡トヨペット株式会社
取締役社長　大西四郎
福岡市大字比恵九二番地
電話代表 ㊹一一二一番

博多日産モーター株式会社
取締役社長　太田九州男
福岡市那珂字淵高一〇六番地
電話代表 ㊺八八三六番

北部九州いすゞモーター株式会社
取締役社長　寺坂勝次
福岡市白鷺町六〇番地
電話 ㊺六二三一番

株式会社マツダオート福岡
取締役社長　吉田弘
福岡市比恵新町一八番地
電話代表 ㊺六〇三一番

福岡ダイハツ自動車株式会社
代表取締役　泉行雄
福岡市比恵三五番地
電話本社 ㊺一三三一工場六五三六

九州中重自動車株式会社
取締役社長　西崎克巳
福岡市薬院露切町三一番地
電話 ㊸三一六一～九番

国際モータース株式会社
取締役社長　中井洗之
福岡市白鷺町七番地
電話代表 ㊺八一三一番

福岡ホンダ販売株式会社
取締役社長　内野庄八
本社 福岡市中堅町七番地
比恵営業所 電話（代表）㊷八〇六一番
福岡市白鷺町四二番地
支店 電話 ㊹一一九二番
飯塚・瀬高・大牟田

宗像大社献詠 俳句作品集（三七）

手袋の手相鏡も売場かな　津屋崎　毛利　夜潮

オーバーの斜めに髪をなおしおり　津屋崎　久羽　文王

木枯しや廊下が暗し科病棟　津屋崎　西住さざなみ

初鶏の屋根より年輪はじまり来　津屋崎　占部　河童

夜業の路尖らねばわが旗見失う　津屋崎　勝田　光一

病衣砕きまって水仙地に匂う　津屋崎　白石百合蔵

焚火明り日雇人夫の朝初まる　津屋崎　吉野たかし

退勤の背に負い帰る寒夕焼　津屋崎　岩見佳代子

魚減る冬掌にあたたかし夜の幹　津屋崎　井浦　良介

帰り花小春は光る菊たんぽぽ　東郷　小野　淡坡

神詣七五三花咲くハイヤー　厚狭　篠田　南洞

焼椎貰うて子と倹しさを分け合いぬ　東郷　小野　花居

日立と共に五十年（三）

倉田主税会長の半生記

なぜ陸軍が畑ちがいの潜水艇をつくる気になったのか。

ガダルカナルには三万余の陸軍が、米軍の上陸を迎えて全滅の悲運に直面していた。食糧、弾薬を補給しなければみすみす見殺しにしてしまうのである。海軍に頼もうとしても、ミッドウェー海戦以後の海軍は、とても陸軍を応援するどころではなかった。海軍自体の作戦行動すらも思うにまかせない状態であったのだ。陸軍は焦慮した。苦悩した。そのあげくに考えついたのが、自力による補給ということだ。飛行機ではとうてい不可能であるから、どうしても海上でなければならない。それも、潜水艇でなければ敵の空、海軍の餌食になることはわかりきっていた。命令を受けたといっても陸軍にはまだ設計もなにもできていないのである。どんなに早く見積っても設計して作業に取かかり、完成するには七、八カ月を必要とする。目前に迫っているガダルカナルの急場に間に合わせることは不可能であった。幸い、めずらしく陸・海軍の完全なる協同作戦により、十八年の二月には無事ガダルカナル島撤退が完了した。そのころに至って、漸く陸軍では潜水艇の設計が出来上ったのである。この潜水艇の名称はマルゆ号と名付けられ、それは当事海軍が使っていた輸送用潜水艦八号一〇〇型などくらべるとずっと小さいものだった。命令を受けた笠戸工場は元来、機関車の専門工場であったのだが、当時は機関車の製造はやめて、専ら陸軍の大発（上陸用大型発動機船）をつくっていた。

秘密命令を受けた同工場では、ただちに本店軍納部にこの旨を報告した。「これはえらいことになった。潜水艇の建造というのは、ほかの兵器とちがって容易ならぬ仕事だ」命令を受けてから半年余経過した。すると、"軍の期待にそわぬ"厳重な抗議が出て来た。社長以下最高幹部は、この重大任務を遂行するために、笠戸工場の機構を強化して、大物工場長を任命することになった。「誰彼というより、軍納部長自身が挺身してもらいたい」そういう小平社長の意見に幹部達も賛成した。

陸軍からの正式抗議命令とともに主税は工場長として笠戸へ赴任した。新工場長の主税を迎えて三千名近い工場従業員は緊張していた。電線工場の創業者として彼の名は前から遠く笠戸まで聞えてい

り、特にこの数年は軍納部長として工場を視察に来たりしたので、彼の人柄については多少の予備知識があったからである。着任早々彼は、構内いたるところに木の立札を立てさせた。"創意工夫と生産倍加"という文字が、墨痕あざやかに、どの立札にもしたためられているのだ。三千名の従業員は日立生えぬきの者ばかりでなく、臨時の徴用工なども沢山まじっているので、それらを完全に掌握するということは困難であった。ともすると、てんでんばらばらになり勝ちで、なかには精神的に緊張欠くべき者も皆無ではなかったのだ。主税はこれを見て、早速教育の必要を感じたのである。感じるや否やただちに実行したのがこの立札であった。彼は日立工場で教育"やや"指導"のことについては豊富な経験があった。笠戸工場でも毎月八日の大詔奉戴日には彼は全従業員を集めて切々たる訓示をした。また工場に職域在郷軍人会をつくり、自ら会長となった。職業軍人ではないが、彼は陸軍中尉として郷軍のために活動することを当然の義務としたのである。

設計したのが陸軍の軍人で、艦船については全くの素人であり、これをつくろうというのが、これまで機関車づくりが専門の職工たちである。船のフの字も知らない素人である。笠戸工場のマルゆ号建造が容易な仕事でないことは十二分に覚悟をしていた。一番大きな困難は、艦船をつくるのに絶対必要な船台がないことだ。普通に造船所で艦船をつくるときは、船台の上でまず船体を組み立て、出来上ったところで機械類を据えつけるのであるが、船台もクレーンもないのだからそういう方法は出来ないのだ。そこで、色々研究をした末に考えついたのは、レールの上で船体を組み立てるという方法である。レールの上にトロッコを乗せ、そのトロッコの上で船体づくりをするのだ。従って長さ五十米ちかいトロッコが必要となる。作業工程を早めるため、船体を三つの部分に区切り、これを別々に組み立て、更にその部分の機械を据えつけた上、三個を電気熔接でくっつけることにした。当時海軍でもそんな方法は採用していなかった。窮余の一策とはいえ、随分思い切ったことを工夫したものである。こうしてつくる方法は決ったものの、建造の仕事は大変であった。一隻や二隻ならばいざ知らず、次から次へと数十隻をつくり上げて順々に納入しなければならないのである。

（つづく）

（文責　養父　守）

あゝ常陸丸（完）

三種神は貴しや
神威冷く井財天
田島の宮や中津宮
沖津島なる沖津宮
輝き渡る西方海
眺めば遥か海上の
波のかなたに鎮りて
おゆはづ様と人は呼ぶ
沖つみ島は神の島
仰げば高し御岳山
ふもとに玉なす御神水
天の安河とうくと
流れつきせぬ神の霊
俯せば碗々釣川の
川のせゝらぎいと清く
神の縁起語りなば
昔のさまぞ偲ばるゝ
歴史は古く連綿と
神つみ代よりうつゝまで
田島大島沖の島
これぞ御国の礎と
敬ひまつり拝めば
みたまのふゆぞ有難し
心のちりや身のけがれ
洗ひ清めて大神に
祈りまつらん世の幸を
幾千代までも変らじと
祈りまつらん此の宮に。　以上

本誌の愛読者から常陸丸事件をしのんで歌った愛唱歌が寄せられているので左に掲載する。

日露戦争当時、小倉高女の生徒が涙を流して好んで歌ったものである。

あゝ常陸丸

（当時の女学生が歌ったもの）

あゝ常陸丸

母ちゃんくゝなぜ泣くの
坊やも泣きたい悲しいわ
袖にすがれば泣くくも
びんのほつれをかき上げて
あはればかなく常陸丸
夕日は涙に落されゞ
霧たち掩ふ海の上
あやめも分ぬ計りなり
嗚呼一聯隊の我勇士
駒のひづめに満州を
ふみにじらんも夢なれや
ウラルバイカル打越えて
あらまし事もまぼろしか
思へば無念極みなり
みづく屍と消へしかど
国につくせし夫の
清きその名は万代も
ひつきの灘に立つ浪の
堪る時なくあはれれて
末まで遠く流るらん
末迄遠くながるらん　以上

宗像三女神奉賛歌

げに尊くも天照す
皇大神の神勅
恐みまつり鎮りて
御代の栄と国民を
守り給へる宗像の
坊やよ聞きなよ父ちゃんは
三年前に広島に
おいでの後は一度も
お会い申さずこの度の
戦にあまた兵をつれ
常陸丸にと乗りこんで
従軍なさる道すがら
鳥もかよわぬ玄海の
灘に敵艦おそいきて
むざく艦をうち沈め
はかなき最期をなされしと
今もこれなる電報が
来たのじゃ坊やよく聞きな
陸軍大尉の位まで
おのぼりなされた父ちゃんが
せめて戦死をなされなば
かくまでみれんはのこらねど
さぞや最期が御無念と
思えば涙がこぼれ来て
思いまわせばまわすほど
お別れ申せしその時は
坊や生れて十ケ月
可愛いや父の顔しらぬ
坊やが三つになるばかり
老先遠き坊が身は
どうなることかいたわしや
されどお前は軍人の
忘れがたなぞおとなしく
成長したるその後は
あっぱれ父の後をつぎ
遺魂かさなるロシヤめと
うちほろぼして父のため
国のあだをばむくいてよ
国のあだをばむくいてよ。

永島　まち

五、結び

大東亜戦争以前は、海軍記念日にあたる五月二十七日には聯合艦隊が沖ノ島に集結して一斉に停船の上沖津宮を遥拝するのが例であった。終戦後は此のことが久しく絶えていた。

昭和三十七年五月二十七日、例年行われている沖津宮現地大祭には戦後初めて海上自衛隊の自衛艦「はるかぜ」他二隻が参拝した。特に「ふな」の乗員約二十名はわざく上陸参拝をした。神社の規定通りに上陸後直ちに鳥居前の海水に漬って禊斎、終始寡言真摯な態度で行動された。

宗像大社宝物館には大海戦の後東郷元帥が神恩拝謝のしるしとして奉納した軍艦三笠の羅針儀がある。この宗像大神の国家鎮護の大神威を仰ぎ、不惜身命、国家護持の覚悟を新にしてそのかみの常陸丸の勇士ほかの霊に対しても新時代の国民のつとめを誓いたいものである。

君がためみづく屍はわがへども
おもはぬ浪にしづむやしさ

井村　真琴

この歌の心を忘れてはなるまい。

宗像藪庵先生百話

武藤南方華やかなりし頃

宗像太郎坊

転出の理由にはいろいろと沙汰されているが、その頃、世界に君臨しようとする東条に向って、正面切って意見具申をし、苦言を呈する事の出来る者は、恐らく部内で彼一人であった。ここらが煙たかったらしい。また、山下奉文と武藤との関係もあった。海軍が戦争を誘導している時、「戦争は国の興亡に関するもの、主役の海軍に自信がなければ、根本的に考え直さねばならぬ」と東条陸相に意見具申をしたのも彼であった。海軍省・陸軍省・参謀本部の主戦論者をずっと抑え来て、なかなかお興を上げなかったため彼だった。彼の権威は書記官長を任じ、企画院総裁を制していた。平たくいえば星野も鈴木も彼の前には頭が上らなかったのである。東条の人事は星野の意見具申で多く行なわれていたといわれるので、武藤の転出もこの辺が機微地ではなかろうか。スマトラで彼はいつもドイツがしっかりやってくれねば困るといっていたが、フィリッピンへ行く時、大東亜戦を批判して日本がこの戦争を起さなかったら国内は一体、どうなったと思うかと語っていた。

この言葉の意味にはいろいろあると思うが読者の判断におまかせする。昭和十九年十月、飛行機でフィリッピンの山下奉文の参謀長になるため出発する時に「もう遅い」と側近に語ったという。

さて、正月の命の洗濯も終ると原の避暑地プラスタギーのずっと山奥の、コタ・チャネよりブランケジャランをぬけて、アチェ州の高原の避暑地タケゴンにぬける自動車道路の構築である。こういえば聞えがよいが、実はもう日本軍の逃げ道を作らんとしたのである。虎・象・オランウータンの棲むジャングルを切り開いて、昭和十九年四月二十九日の天長節を期して開通の予定であったが、労務者の関係などで七月に完成した。タワル湖畔の町タケゴン Takingeunで開通式が行なわれ、祝宴・角力・演芸が催されたが、このとき軍司令官田辺盛武中将・武藤師団長が出席した。二人とも角力に興じていたが、これがおそらくは彼にとって最後の祝典ではなかったかと思う。十月には武藤はフィリッピンに飛び、山下奉文の参謀長となり戦局を收拾せんとしたが時すでに遅く、失敗、辛苦の果が単鴨で絞首刑である。彼の罪状には三つが挙げられている。南京虐殺事件、フィリッピンでの俘虜・住民への残虐行為、スマトラでの俘虜虐待。最後の部は、このコタ・チャネ・タケゴン間の道路構築作業で、白人俘虜を虐待したというのである。おかげで連隊長は八年、わたしも四年の刑を喰らった。武藤中将の辞世の句に「碧の夜を思い切ったる門出かな」がある。田辺中将はスマトラ全島の責任者として銃殺刑、メダン日本人墓地の草むす饅頭の下に眠っている。

宮田　北原きみ子

サルビヤの花ちらつい此のあした
庭の黄菊の一きわ香にたつ

田島　力丸　登

すこやかにはたらきし日のよろこび
を臥してはじめてわれは知りたり

平井　河野　静子

旅にいで購ひて来しフェニックス
見事につきて朝夕楽し

武丸　立石　昇

東天に陽はいま将に出でんとす西
の山々黄に染まり居り

〃　立石ろせ

吾が肩にふれて散りゆく柿の葉の
もみじの色のあざやかにして

大井　安部　重郎

二寸の小鉢に金托した小菊は今
日も匂ひ咲くなり

〃　安部　静子

舟精の菊惜しみなく朝の具れ友
の心を床に活けにき

大井　吉田　杏子

宿の下滑りくゞりて流れ来し此の
水うまし手に掬し飲む

〃　木原　房子

何事も感謝しませと認き給ふ牧師
の瞳輝きてあり

吉武　原田　松代

秋の雨降りて止むなき朝六時孫と
相乗さしてバス待つ

〃　原田　リノ

雨あがりにわかに寒き夕べれの梢
に残る柿がゆれをり

田島　白雲　山人

それ〳〵のつとめのあればやむな
くも交通地獄の街をゆきゆく

牟田尻　楠本　正

古暦残りし日々を数えつつ多忙
と去きし一年を想う

田島　斎藤　惇

せまり来る師走の街のさはめきに
一きわ目だつクリスマスツリー

我楽苦多告知板

頃は昨年の除夏、おトイレの中に漫画の本を持ちこんだ御仁がいる。毎回御利用になるお歴々、相も変らず、この読本♀を終始御愛読だか、さすがに同じものを四カ月に亘って熟読玩味なさると、飽きは来ないとのお要望があった。

それではと、次回封切大公開のアンケートをとった結果、伊賀の影丸、スーパージェッター、ガードマン等が当選、いずれもテレビ番組であった。

○テレビは漫画をリードする。

編輯部より

永らく御愛読いただきました「あゝ常陸丸」は今月号以って完結いたします。連載中、皆様から数々の御意見、並びに常陸丸についての資料をいただきました。紙面の都合により、割愛させて頂きます。

ここに厚く御礼申上げます。尚、来月の同欄には福井正浩氏の「私の神道」を掲載致します。